

キャラクター名
ウノリーヌ三世

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー キュマイラ	ワークス	奇術師	カヴァー	母親
オプション		年齢	24	性別	れでい
覚醒	命令	衝動	破壊	初期侵食率	38 %
出自	安定した家庭	経験	大転落	邂逅	幼子

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	54
肉体	4	0	0			4	行動値	7
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	7
精神	1	0	0			1	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:	2		知識:	2		情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
血の戦馬+愚者の兵装+従者の選別+破壊の爪+コンセ		9r+1	7	18		HP 20回復、装甲無視、HP-3、C値-3
レベルUp 血の戦馬+愚者の兵装+従者の選別+破壊の爪+コンセ		11r+1	7	19		HP 24回復、装甲無視、HP-3、C値-3、
60以上 レベルUp 血の戦馬+愚者の兵装+従者の選別+破壊の爪+コンセ		15r+1	7	20		HP 28回復、装甲無視、HP-3、C値-3

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
みんなの世界	P 慕情	N 疎外感		
Dロイス:コネクター	P	N		
ジャック	P 遺志	N 不安		
シナリオロイス:コードD	P 信頼	N 隔意		
スターゲイザー	P 好奇心	N 食傷		
アライブ	P 友情	N 猜疑心		
蠅の王	P 感服	N 恐怖		

最大財産P: 2 残り財産P: 5

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
赤色の従者	1	5	Xジャー	至近	自身	自動		
効果:	判定ダイス-3、能力値3							
渴きの主	5	5	Xジャー	至近	単体	対決		
効果:	装甲無視、HPL v × 4の回復							
血の戦馬	1	3	セットアップ ^o	至近	自身	自動		
効果:	従者の選別を自分に。従者美味い							
愚者の兵装	5	-	常時	至近	自身	自動		
効果:	従者の選別(肉体+1) × Lv 人出てくる							
コンセントレイト:ブラム・ストーカー	3	3						
効果:	C値-Lv							
破壊の爪	10	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	攻撃力Lv+8、ガード値1							
血の宴	3	3	Xジャー	範囲	範囲	対決		
効果:	対象を範囲に。1シナリオにLv回							
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	戦闘移動、離脱を行える1シーンに1回							
巨人の生命	5		常時		自身			
効果:	最大HP+Lv*5							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

PC4 異世界人 ジョブ/ワークス 自由/自由
 ストーリーロイス 自分の世界 感情 執着/自由
 あなたは気がつくと思知らぬ土地に降り立っていた、
 言語だけは通じる世界であなたは確信する。
 ーあなたは異世界に来てしまったのだと
 なんとなくも帰らなければ。
 あなたは走り出した。
 Dロイス『異邦人(アウトサイダー)』取得
 (帰らなければならない理由を考えてください)
 Dロイス【異邦人(アウトサイダー)】
 「なんだここは」
 私は銃を手に途方に暮れた。
 何せ私はついさっきまで戦場にいたはずなのだ。
 エースパイロットたちは人型の機会に乗り、殺戮を繰り返す。
 自分のような一兵卒は機関銃を手に戦場を死ぬ気で駆けずり回る。
 運が良ければ敵の機体の目を掻き潜り、生き延びられる。
 そんな世界にいたはずなのだ。
 だというのによお
 「ここ、どこだよ」
 目の前にはテレビとかで見たことあるような高いビルの立ち並ぶ
 灰色の世界が広がっていた。
 俺の茶色で煤けた世界なんてどこにもなかったんだ。